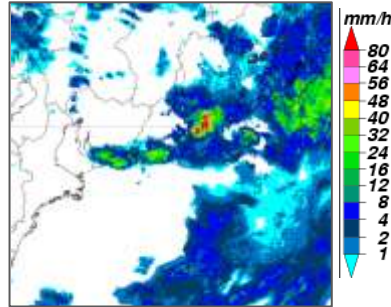


2004年 9月4日～5日 不安定（日本の南海上に台風）

1. 気象経過

8月28日にマーシャル諸島近海で発生した台風第18号は、9月5日に大型で非常に強い勢力で沖縄を通過。その後東シナ海から北東に進路を変え、7日長崎市付近に上陸した。台風第18号は、2004年台風第16号と似たコース、勢力であったことから、大雨は前回同様九州東岸、四国太平洋側が中心となり、九州地方の一部では、降り始めからの雨量が900mmを超えた。台風は風が強く、全国の広い地域で最大瞬間風速が50m/sを超え、これまでの記録を更新する猛烈な風が吹いた。これにより大雨、暴風、高波、高潮の被害が相次いで発生した。台風は日本海を北東進したため、県内では、波、風は注意報級程度であったが、台風第16号同様に外側の暖かく湿った風の影響により、4日明け方頃から激しい雨が断続的に降り続き、**アメダス清水では4日23時20分までの1時間に102mm、アメダス稲取では4日21時20分までの1時間に88mmの猛烈な雨を観測し、観測史上1位を更新した。また、解析雨量では、20時に静岡市山間部付近、20時30分に富士宮市付近に記録の短時間大雨情報が発表された。短時間強雨は5日未明まで続いた。**



2. 大雨の原因、特徴

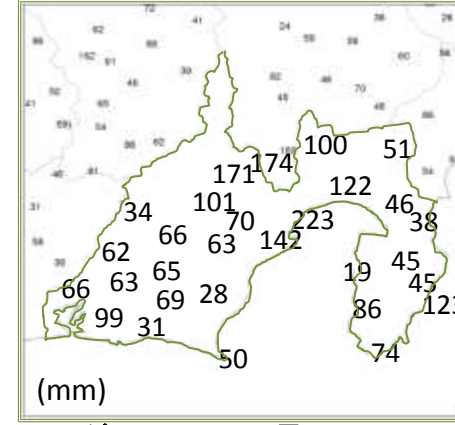
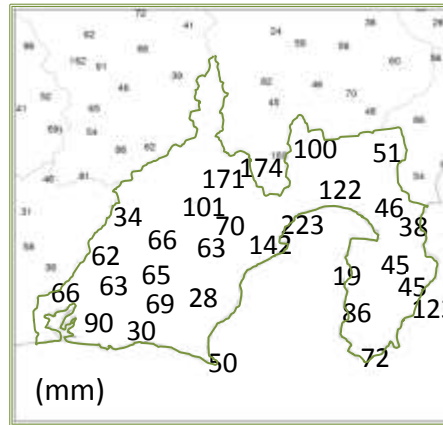
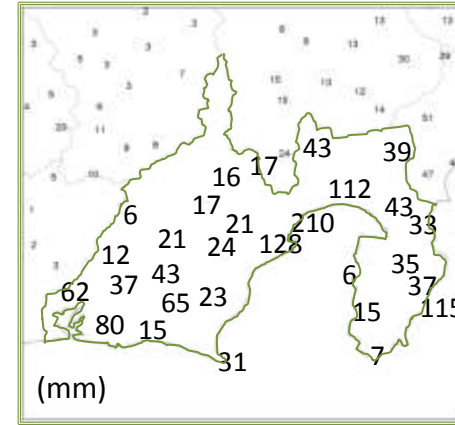
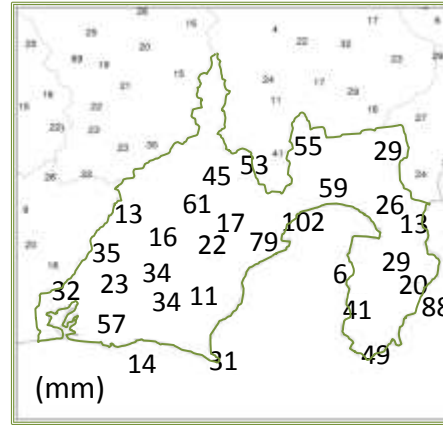
南から南西の風の影響で大雨となりやすい地形をもつ四国の太平洋側や静岡県で総雨量が増し、台風第16号(8月17日～18日)の大雨と同じ地域で大雨となった。4日夜に県内に発生した短時間強雨も、前回同様台風周辺の非常に暖かく湿った風により、四国沖から関東沖にかけて線状分布の積乱雲が発生し、北上したことによる。前回と異なる点は、平地も含めた広い範囲で局所的に降ったことにある(次頁参照)。これらの雨雲は、急激に発達することから、降る地域や雨量を正確に予測することは難しい事例である。

3. 被害概要

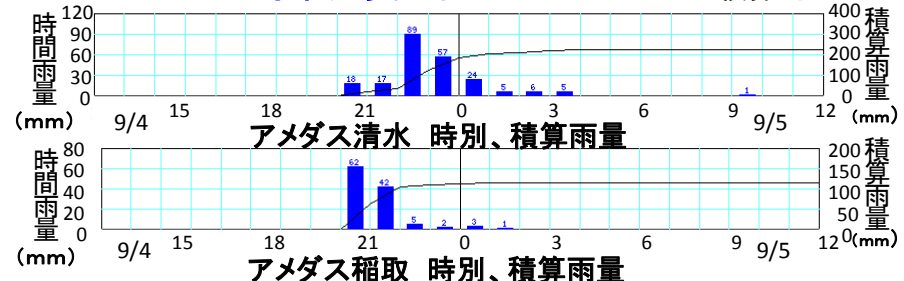
	床上 浸水 (棟)	床下 浸水 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	一部 破損 (棟)	死者 (人)	軽傷 (人)	重傷 (人)	道路 陥没 (箇所)	道路 寸断 (箇所)	河川 寸断 (箇所)	移動 不能 (箇所)	浸透 不能 (箇所)
全県	24	261	0	0	0	0	0	0	3	63	0	7	0
中部	13	42	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-
西部	7	182	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-
東部	4	37	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-
伊豆	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-

被害数は、静岡県 平成16年における災害の状況による

4. アメダス雨量分布図

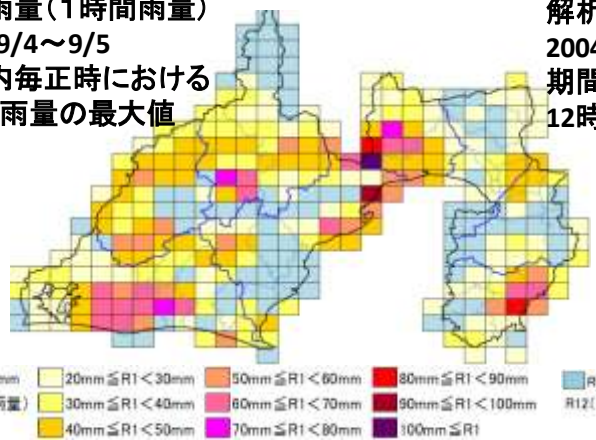


5. アメダス雨量時系列変化図

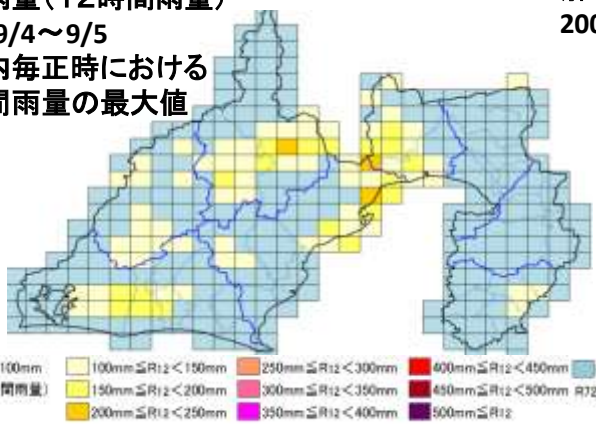


6. 解析雨量分布図

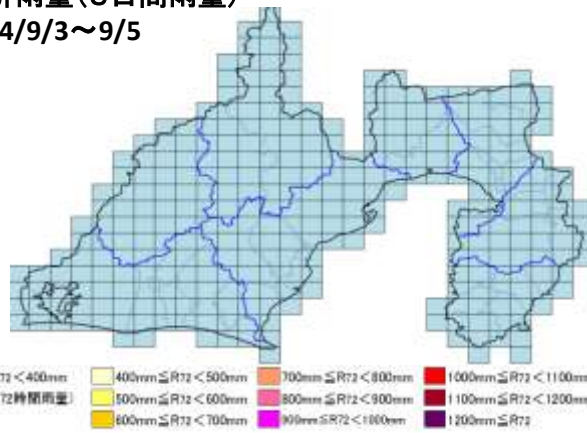
解析雨量(1時間雨量)
2004/9/4~9/5
期間内毎正時における
1時間雨量の最大値



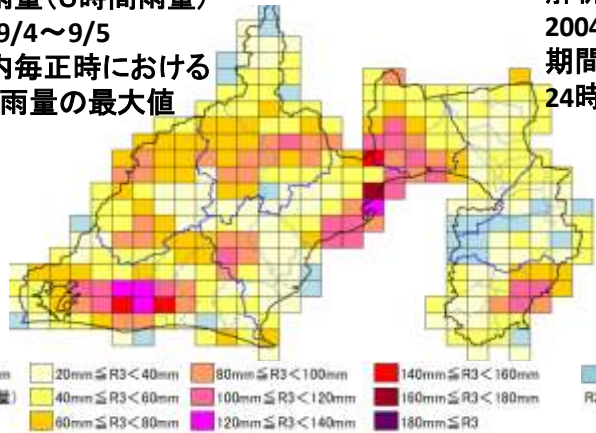
解析雨量(12時間雨量)
2004/9/4~9/5
期間内毎正時における
12時間雨量の最大値



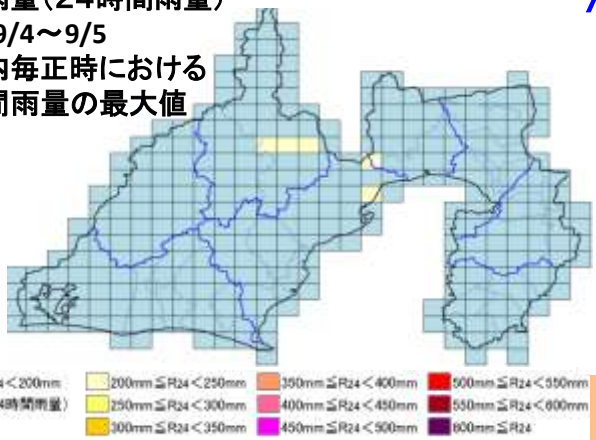
解析雨量(3日間雨量)
2004/9/3~9/5



解析雨量(3時間雨量)
2004/9/4~9/5
期間内毎正時における
3時間雨量の最大値



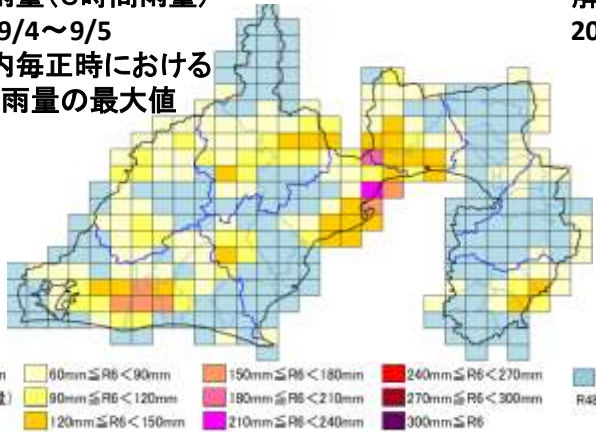
解析雨量(24時間雨量)
2004/9/4~9/5
期間内毎正時における
24時間雨量の最大値



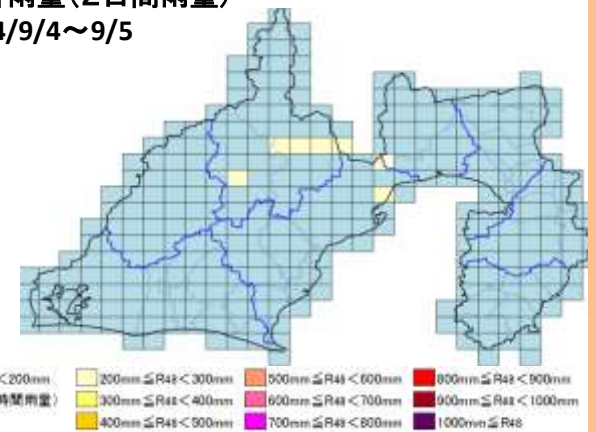
7. 床上、床下浸水被害分布図 (市町毎)



解析雨量(6時間雨量)
2004/9/4~9/5
期間内毎正時における
6時間雨量の最大値



解析雨量(2日間雨量)
2004/9/4~9/5



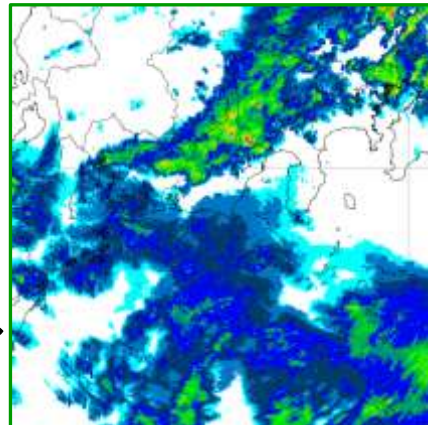
解析雨量と浸水害分布図からわかる大雨の特徴

浜松(防衛省)では、高度1500m付近において4日9時南西の風、風速3m/s、相当温位342度、21時には南の風、風速4m/s、相当温位342度、持ち上げ凝結高度は956hPaを観測していた。風速が弱く雨雲が発生するきっかけが必要であったが、一旦発生すれば、瞬く間に積乱雲に発達する条件となっていた。23時頃の遠州南、中部南、富士山南西で短時間強雨をもたらした要因は、アメダス御前崎で南東風、アメダス天竜やアメダス清水では北風で、沿岸部から山沿いには風向の異なるラインがあり、雨雲が発生、発達したためと考えられる。これらの地域では、広域で3時間雨量が100~160mmとなり、浸水害が発生した。

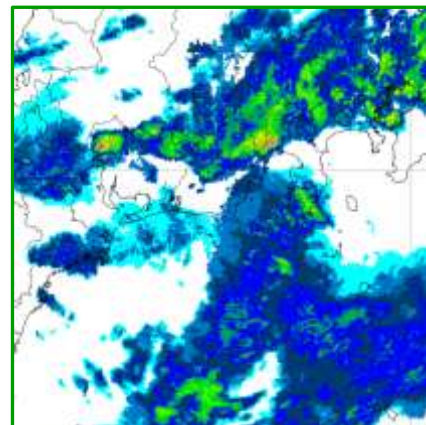
8. その他の記録

2004年9月4日19時～
2004年9月5日3時
毎正時毎気象レーダー

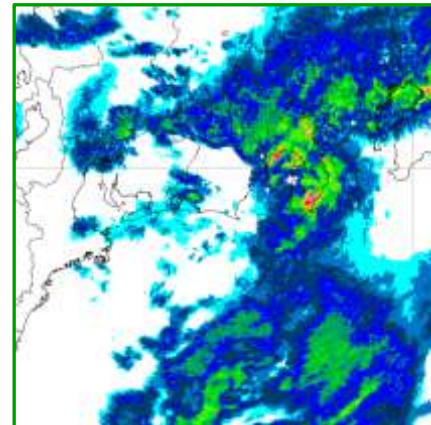
雨雲が発生、発達する地域は、時々刻々と変化したが、停滞性はなかった。ただし、線状に連なった場合、1時間程度降り続けるため猛烈な雨となる。下のグラフはアメダス清水の10分間隔の雨量。一時的に積乱雲がかかり続けた22時過ぎから23時過ぎにかけて10分15mm以上が続き、23時20分までの10分間では24.0mm(1時間換算で144mm)の降水を観測した。



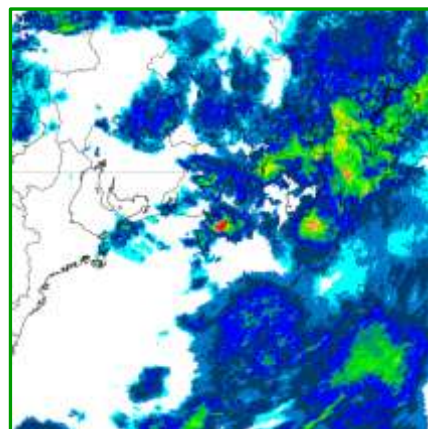
2004年9月4日 19時0分



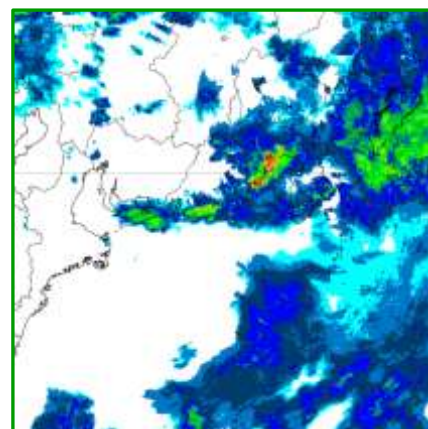
2004年9月4日 20時0分



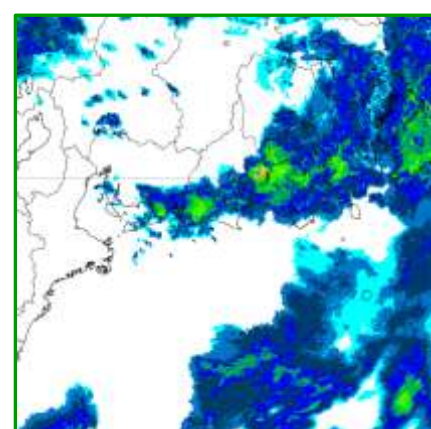
2004年9月4日 21時0分



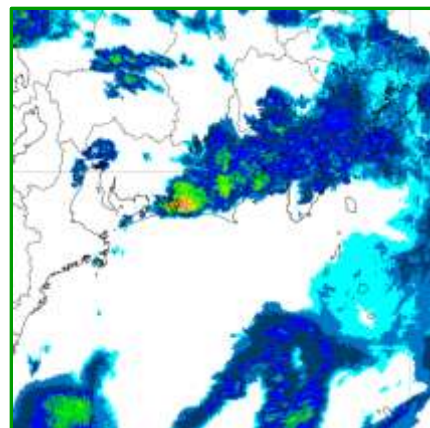
2004年9月4日 22時0分



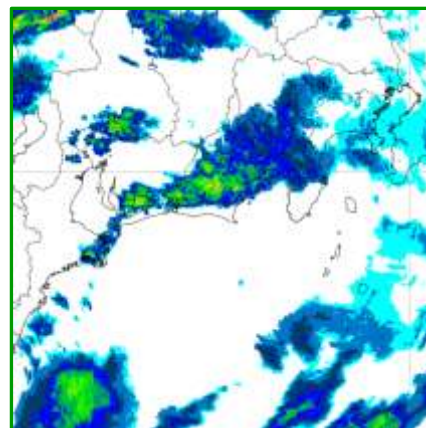
2004年9月4日 23時0分



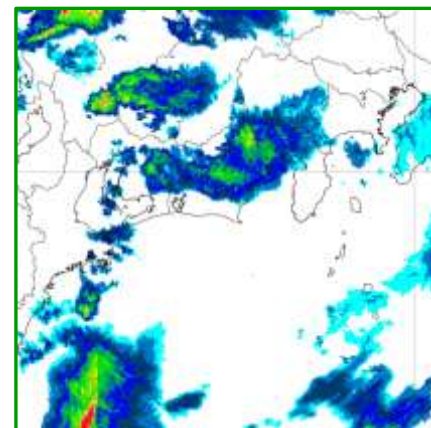
2004年9月5日 0時0分



2004年9月5日 1時0分



2004年9月5日 2時0分



2004年9月5日 3時0分

